

山陰総合

身近なニュースは

本社編集局 TEL0852(3)23320

環境関連商品などのイルカレッジ(米子市万能町、朝山規子社長)は2017年度、大規模な森林火災などの消火作業に使えるゼリー状消火剤について、インドネシアで実用化研究を始める。世界屈指の熱帯雨林を抱える同国では、いったん山林火災が発生すると被害が深刻化するケースが多く、対策が急務となっている。現地政府の協力を得ながら効果を検証し、将来的に輸出を目指す考え。

山林火災の発生時は航空機やヘリから散水して消火活動にあたるが、高度が高いと放たれた水が霧状になり風に流されて効率が悪い。一方、高度を下げすぎると火災に巻き込まれる恐れがあった。

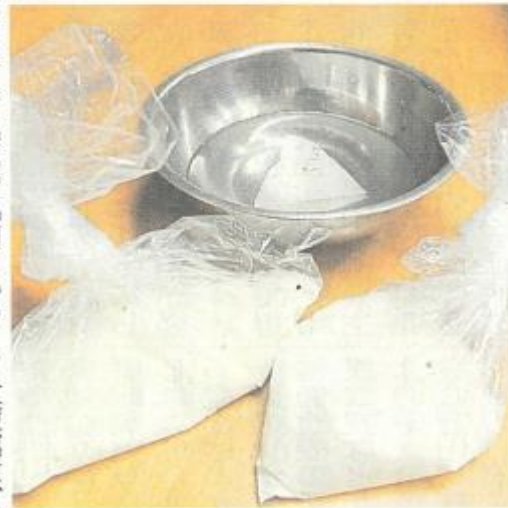
イルカレッジが鳥取大学と産学連携で開発した消火剤は、白い粉末状の消火剤を袋に小分けしてあり、消火時は水を含ませてゼリー状にし、火の手の中心部に直接投下する仕組み。ヘリからの投下実験を行うな

# ゼリー状消火剤 実用化実験 インドネシア森林で検証へ

米子・イルカレッジ



実用化実験のため、ゼリー状消火剤(イルカレッジ提供)をヘリコプターから投下し、森林火災の発生状況を確認する実験を行った。米子市万能町、朝山規子社長(左)と、朝山規子社長(右)が実験の様子を見守る。米子市万能町、朝山規子社長(左)と、朝山規子社長(右)が実験の様子を見守る。



イルカレッジが開発した消火剤。白い粉末(手前)に水を含ませるとゼリー状(後方)になる。米子市万能町、同社

どして、風速や風向といったデータを分析。高度数百メートルでも狙った場所に正確に投下できる解析システムも開発している。

広大な原生林や植林地が広がるインドネシアでは、大規模な森林火災による煙の影響で周辺国の空港が閉鎖される事態を招くなど、問題が深刻化している。こうした中、在日インドネシア大使館などが同社の事業を聞きつけ、現地での研究を仲介した。

プロジェクトは国際協力機構(JICA)の調査事業に採択されており、17年度は同国の中央省庁の協力を得ながら実験を重ね、消火剤や解析システムの効果を検証、市場調査も行う。

イルカレッジは防災用の航空機やヘリを保有する日本国内の自治体にも、消火剤の販売を働き掛ける予定で、朝山社長は「研究開発の精度をさらに高め、火災被害や環境影響の軽減、住民の安心・安全に貢献したい」と話した。

平成二九年 三月七日

## 山陰中央新報

(錦織拓郎)